

oteshio  
PM 1:00-7:00 日火火定休  
中央区南1条東2丁目 和興ビル2F  
TEL011-271-9577  
oteshio.com  
月に1回の「人生フルーツ」大好評上映中!

ピタゴ エルスカ  
LUNCH 11:30-12:30  
DINNER 14:00-22:00  
BAR 22:00-25:00  
札幌中央区南3条西5丁目  
札幌中央区南3条西5丁目2-1  
TEL:011-231-312-0283

25周年記念  
ジュゼップ・トリアップ  
SEVEN AND A HALF  
www.sevenandahal.com

世界書局  
WORLD BOOK CAFE  
ワールドブックカフェ  
札幌中央区南1条西1丁目2 大沢ビル5F  
TEL/FAX 011-206-7376  
12:00-22:00 年中無休

有栽培野菜のセレクトショップ  
KOPITIAM  
札幌中央区南1条西1丁目1番地111号  
営業時間: 15:30-20:00 定休日: 土・日・月

bonsaiのアトリエ  
kusatsu-dukki  
http://kusatsudukki.com

ねおる  
焼鳥やむや  
18:30-24:00  
011-303-8888  
札幌中央区南3条西9丁目

器と雑貨 asa  
札幌中央区大通西8丁目2-39 大通ビル11階  
TEL 011-206-6975  
http://utsusa-asa.jp/jugem.com (blog)  
http://utsusa-asa.net (webshop)

シアターキノ  
ボランティアスタッフ募集!  
詳しくはお問い合わせください  
011-231-9555 (中継)  
www.theaterkino.net

BUND CAFE  
上質台湾系バンドカフェ  
南1西5 5-6-3 CUTEビル 6F  
水曜定休 12:00-20:00 (日曜は19:00まで)  
電話 011-232-0880  
http://park20.wakwak.com/~bundcafe/

Hair Midget  
No Beauty No Life  
札幌中央区南10条西4丁目 旭通ビル2F  
TEL/FAX 011-299-9070  
green-midget@vodafone.ne.jp  
green-midget.jugem.jp

MÉMOIRE  
VINTAGE SHOP  
Vintage shop Mémoire (メモワール)  
札幌中央区南3条西5丁目1番地211号  
open 13:00-20:00 不定休  
011-582-4346  
http://memoire-mintan.com

BETTY  
札幌中央区南3条西5丁目  
TEL 011-233-5797 17:00-23:30 年中無休  
http://www.bettyogino.com

cagra  
札幌中央区南3条西5丁目  
TEL 011-219-9928

くさかっぱん  
札幌中央区南3条西5丁目4号の3 (狸小路7丁目)  
電話番号 (011) 210-0780  
店舗営業: 日・金・土・日・月  
営業時間: 十時～深夜(日曜は十七時まで)

有栽培野菜のセレクトショップ  
GREEN LEAF TABLE  
「季節の野菜を楽しむ」  
札幌中央区南1条西1丁目大沢ビル111号  
営業時間: 15:30-20:00 定休日: 土・日・月

印刷・編集・制作・出版・企画  
共働事業所 七じり  
札幌中央区南8条東2丁目5-74 市民ビル7F 7F 7号室104  
TEL (011) 596-6583 FAX (011) 596-6584  
E-mail: mojiya@npoliffe.net

山の手印刷  
Alliance Française de Sapporo  
フランス語学校/フランス文化センター  
札幌オーリアンス・フランセーズ  
中央区南2条西5丁目10-2ワンワード南205ビル2F  
TEL:011-281-2771 http://www.afaasapporo.jp

kino cafe  
キノカフェ  
札幌中央区南3条西6丁目 南3条グランビル2F  
(シアターキノロビー側) tel 011-231-9775  
open 11:00-19:30 (Lo!9:00)  
closed 火曜日、第2・4水曜日

「万引き家族」への想いは枝裕和監督インタビュー

最初に思い付いたのは、「犯罪でしかなかった」というキャッチコピーです。年金詐欺を働いていたり、親が子供に万引きを働かせていたり、そういった事件が報道されるものすごいパッシングが起きますよね。当たり前ですけど、悪いことをしてんだから。でもっと悪いことをしている人が山ほどいるのに、それをスルーしておいて、なぜ小さなことばかりに目くろりを立てるんだろって。一方で僕がその曲がりだからかもしれませんが、特に震災以降、世間で家族の絆が壊れてきたことに居心地の悪さを感じていました。絆について考えてみたいと思いました。だから犯罪でつながった家族の姿を描くことが決まりました。そこから何を広げて、何を掘り下げたいかということには、キャストिंगが決まってから考えていったようなところがあります。結果として、この10年くらい自分なりに考えてきたさまざまなことが、今回の作品の中に詰まってるんじゃないでしょうか。家族とは何かと考える話でもあり、父親にならうとする男の話でもあり、少年の成長物語でもありますが。描き方而言は、事件報道で断罪されたある家族の内側を、少し近づいて見てみるという視点の持ち方も、「誰も知らない」と似た部分があるかもしれません。貧困家庭を描くことでもあり、父親になることとか、そういった意図はありました。むしろそこにかろうじて転がり落ちないために、今回の家族はある家に集まってくるんじゃないかなあって。「誰も知らない」の柳家金語楼くんとか今期期末を演じた城桧森くんが似た雰囲気を持っているとしたら、もうそれは、彼らのような顔が好きだからです(笑)。「誰も知らない」以来のこのかもしませんが、作っている感情の核にあるものが喜怒哀楽の何かと言われると、今回は「怒」だったんだと思います。「歩いて歩いて」で自分の怒の回りのモチーフを切実に、狭く深く掘ると言う作業を行ってから、海よりもまだ深くまでそれを続けてきて、なるべくミニマムに、社会へ視野を広げてら 振ってみるという考え方をいったん一切りさせました。だからもう一度思ったということじゃないでしょうか、原点に。「三度目の殺人」は、社会へある違和感から生まれた作品だと思います。そうやって怒って作られたものはやはり強いです。喜怒哀楽のこの怒で作っているものが、僕の中で何作ありますが、それは結果的に強い作品になっているので、時々怒ることは大事なんですよな(笑)。

「万引き家族」プレスより

7月28日 (土) 公開  
子どもが教えてくれたこと

毎日が、愛おしい。  
お芝居が大好きな9歳の女の子アンブルは可愛いわ色のリュックが欠かさない。サッカーが大好き、パパとの日々の練習が大好きな5歳のカミュ。目の色が左右でグリーンとブルーのデュアルは9歳。自分の言葉でわかりやすく話そうと7歳のイマドはときに大人びるけれど、可愛い。僕の皮膚はチョコレートの羽みたいな匂い、という8歳のシャルルはいつも親友と一緒に。そんな5人の子どもたちが主人公。共通点は病気を通してということ。でもっとも幸せそうです。遊れれば开心的に笑う、これは命について、子どもであることについて描いた素敵な映画です。「3歳の娘の病氣、そして彼女の死を通して、私たちが家族は言葉では言い表せないような経験をしました。でも、そうした経験をしたのには、決して私ただけではなかった。病氣の子でもを持つ家族は、子どもの生き方に勇気をづけられ、支えられているんだ、ということの一つの作品として描きたいと思うようになりました。大人からの視点でもなく、あくまで子どもの目線に立って描くことにこだわりました。子どもたちは一人ひとり性格も違えば、育っている環境も、病状も違う。個性豊かな5人の日常を追い、と考えたのです。イギリスの詩人、ウィリアム・アーネスト・ヘンリーの有名な言葉に「私が復讐の支配者、私が我の指揮官なのだ」という言葉がありますが、子どもたちはまさにそれを体現しています。彼らは自分の手で人生を切り開き、とことん生きている。誰一人未来を恐れてない、あくまでも自然体で生きてようとしているのです。」  
アンヌドフィーヌ・ジョリアン監督

8月11日 (土) 公開  
バトル・オブ・ザ・セクスィーズ  
これやらじゃやこれやら

時代を変えた、女と男の熱い戦い!  
1973年、全世界で9000万人の目をぎぎ付けにした決戦があった。女子テニス界の世界チャンピオンのビーリー・ジーン・キング(29歳)に、元男子チャンピオンのポビー・リッグス(55歳)が挑戦戦を叩きつけたのだ。発端は女子の優勝金が男子の1/8だというところにビーリー・ジーンが抗議したことから。全世界が息を吞んで見守るなか、「バトル・オブ・セクスィーズ」=性差を超えた戦いの幕が開く―果たして勝者はどちらに?そして、手に汗握るこの戦いの本当の目的とは?  
伝説のテニスの女王には「ラ・ラランド」のエマストーン、子供の頃から、「ベストをつくせば世界は変えられる」と信じて、今現在も様々な活動を続けているパワフルでチャーム的な実在の女性を演じて切っています。  
外見的には全く似ていなかった。でもプロデューサーたちは「今を代表する女優」に70年代を代表する女性」を演じてもらいたいと思った。ただ一つ大きな問題は、エマはテニス経験がなくラケットを握ったことさえ殆どなかったこと。それから猛特训が始まり、そして何より一番大事だったのはエマがビーリー・ジーンを尊敬し続けること。今まで見たことのないエマストーンが誕生、驚くほどビーリー・ジーンに似てきた……  
相手役の自立もたがり麗で悪趣味、「全女性」の敵「ユーマ」たがりに演じ、男の切なさまでにませるのは「フックスキャッチャー」のスティーヴ・ケルレ。製作はダニー・ボイル、脚本はサイモン・ボーフの「スラムドッグ\$ミリオネア」チーム、監督は「リトル・ミス・サンシャイン」のヴァレリアー・ファリス&ディヨナサン・ティロン。音楽は「ムーンライト」のニコラス・ブリム、衣装は「ラ・ラランド」のメアリー・ペレスと超豪華スタッフが勢揃い。世紀の戦いの全貌が明らかされたとき、彼女がすべてをかけて戦わなければならない理由にたどりつく。感動の事実。

MOVIE LINEUP 114  
2018.7-9  
THEATER KINO

今号のあいさつ  
あつという間に7月、北海道の夏がやってきました。5月、カナズ国際映画祭で最高賞のバルドール賞を是枝裕和監督「万引き家族」が受賞、今年一番の嬉しいニュースでした。ただ今日日本の映画館で大ヒット上映中ですが、キノも夏休みに上映です。授賞式で審査委員長のケイト・ブランシェットさんからバルドール賞を贈呈されてこの映画祭に参加させてもらっていつも思いますが、映画を作り続けてゆく勇気をもらいます。そして対立している人と人を隔てる世界と世界を、映画がつなぐ力を持つのではないかと想像します」とおっしゃっていた監督。  
普段見過ごされてしまうようなことを、ぶれない視点で、ていねいに、やさしくと強さを持って作品1作品つくり続けてきた監督の作品は、いつも見終わったときに心に残る深い余韻とともに、小さな石が波紋を広げるように様々なことを私たちは自分に引き寄せてみてゆくように思えます。本のように2度3度、読み返してゆきたいものです。  
人生とは、時間をかけて私を愛する旅――「フジコ・ヘミングの時間」が始まりました。フジコさんのファンのみさんが楽しみに待っていた日当初から大興奮、パンフレットもCD、本も売れ切れになるほどです。キノカフェのフジコさんティラミスやフジコさんの「フジコさん、お茶の時間です」オリジナルおやつも登場。するとHPをご覧いただいた小松村一良監督から「フジコさんはミルワたがりのカメラマンが好きですよ」と。それではキノの夏作品、満喫してください。お待ちしております。 支配人 中島ひろみ  
2018年度キノ会員募集中! [締切]2018年5月31日(木)  
ビートルズ・ジョニー・デップ学生会ご利用期間:2018年4月1日-2019年3月31日  
大沢ビル11階 地上3階  
TEL 011-231-9555 www.theaterkino.net / webmaster@theaterkino.net